

「AI脅威に対する金融分野のサイバーセキュリティ対策強化に関する官民連携会議」の開催

4月24日、金融庁は「AI脅威に対する金融分野のサイバーセキュリティ対策強化に関する官民連携会議」を開催しました。

【官民連携会議参加者】

片山	内閣府特命担当大臣（金融）
伊藤	金融庁長官
柳瀬	金融庁総括審議官
植田	日本銀行総裁
神山	日本銀行理事
門松	国家サイバー統括室統括官
加藤	全国銀行協会会長兼みずほ銀行取締役頭取
寺井	みずほ銀行常務執行役員
山道	日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループCEO
田倉	日本取引所グループ常務執行役員
福留	三井住友銀行頭取CEO
渋谷	三井住友銀行グループCISO
大澤	三菱UFJ銀行取締役頭取執行役員
松下	三菱UFJ銀行常務執行役員

＜片山大臣ぶら下がり記者会見冒頭発言（要旨）＞

たった今までAI脅威に対する金融分野のサイバーセキュリティ対策強化に関する官民連絡会議を開催いたしました。会議には日本銀行の植田総裁それから国家サイバー統括室から代表、それから3メガバンクのトップ及びチーフサイバーセキュリティオフィサー、それから東京証券取引所の山道さんとサイバー担当の役員にご出席をいただきました。私からは先般のG7、G20、IMFの議論であったり、そういうところから、まさにこれは今そこにある危機であるということを申し上げ、金融界からもそういう声が出ました。つまり、AIの進展が金融分野にもたらす変化から新たな備えが必要になり、経営判断が一層重要になってくるということでございます。具体的には金融システムは相互接続性が非常に高いので、リアルタイムで処理されるので、他の業界はしなくていいとは言いませんよ。言いませんけども、広がりや他の業界とは比較にならないので、そのサイバー攻撃によって直ちに市場の影響とか信用不安にまで波及するという特性があります。金融機関が重要インフラ機能を担っていただいている立場として、この脆弱性の情報の把握からパッチの適用までの迅速化ですとか、このインシデントが発生した時の備え等がこれまで以上に重要なものと考えております。



写真：官民連携会議の様子

本日の会議では、この金融業界と政府、日銀等が共通の理解を持ち、先を見据えた対応を検討していくため、今後、事務方レベルで議論を深める作業部会、いわば金融の「日本版プロジェクト・グラスウィング」を立ち上げることを私から提案いたしました。出席者から全員のご賛同を得て設立されたということでございます。強い経済を目指す高市政権ですから、このAIを巡る戦いも勝ち抜かなくてはなりません。今後作業部会を中心に迅速に検討を行ってまいりたいと思います。¹



写真：官民連携会議で発言する
片山大臣

本会議を踏まえ、金融業界とIT事業者、政府・日本銀行等がAI技術の進展による脅威について共通の理解を持ち、対応を検討していくため、実務者レベルでの議論を深めることを目的とした作業部会を5月14日に開催しました。参加組織等については、金融庁ウェブサイト²をご覧ください。

¹ 片山財務大臣兼内閣府特命担当大臣ぶら下がり記者会見の概要

<https://www.fsa.go.jp/common/conference/minister/2026a/20260424-2.html>

² 「AI脅威に対する金融分野のサイバーセキュリティ対策強化に関する官民連携会議」の作業部会の開催について

<https://www.fsa.go.jp/news/r7/sonota/20260514/20260514.html>